

高橋コレクション

顔と抽象

展

Takahashi Collection - Face and Abstraction

- | | |
|------------------------------|-----------|
| 会田誠 | 高橋大輔 |
| 青山悟 | 橋爪彩 |
| 赤塚祐二 | 鷺見磨 |
| 浅井裕介 | 田口和奈 |
| 荒木経惟 | 辰野登恵子 |
| 有島生馬 | 戸田沙也加 |
| 衣川明子 | 富田直樹 |
| 伊勢周平 | 堂本右美 |
| 磯邊一郎 | 中川一政 |
| 梅津庸一 | 中野浩二 |
| パーブルーム予備校、
坂本夏子 &
梅津庸一 | 中村一美 |
| 梅原龍三郎 | 長與善郎 |
| 岡崎乾二郎 | 奈良美智 |
| 落合多武 | バーナード・リーチ |
| ob | 原田健司 |
| 風間サチコ | 彦坂尚嘉 |
| 加藤泉 | 藤原裕策 |
| 河野通勢 | 舟越桂 |
| 岸田劉生 | 町田久美 |
| 清川あさみ | 松井えり菜 |
| 草間彌生 | 水戸部七絵 |
| 小出ナオキ | 武者小路実篤 |
| 興梠優護 | 村上隆 |
| 児島喜久雄 | 森村泰昌 |
| 小西紀行 | 森山大道 |
| 小林正人 | 安田靉彦 |
| 小林孝亘 | 山口はるみ |
| 合田佐和子 | 山田正亮 |
| 近藤亜樹 | 横尾忠則 |
| 齋藤彩 | 李禹煥 |
| 佐藤姿子 | 若山為三 |
| 佐藤允 | 脇田玲 |
| 里見淳 | |
| 塩田千春 | |
| 志賀直哉 | |
| ジャン・コクトー | |
| ジョルジュ・ルオー | |
| 菅井汲 | |
| 杉本健吉 | |
| 鈴木金平 | |

顔と抽象——スペクトラムとしての絵画

顔と抽象はスペクトラムを成している。こういうと分りにくいかもしれないが、顔、特に自画像は自意識の強度が最も強いもの、抽象画は自意識を消しさろうとする試みとすれば、自意識の強さをスペクトラム(連続体)として並べてみたら、この時代の絵画の歴史を切り取ることができるのではないかと。要するにこういうことだ。

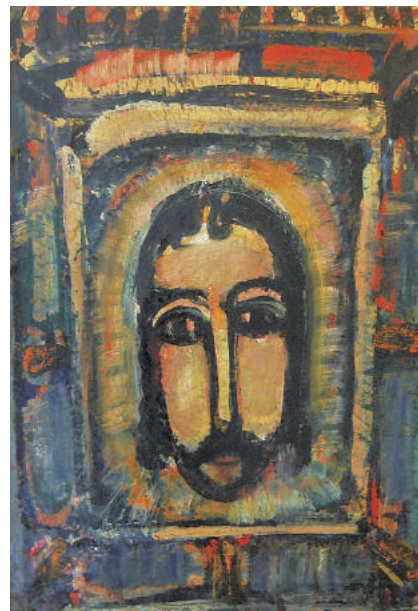
デカルトが「われ思う、ゆえに我有り」と身心の二元論を唱えて以来、私たちは自意識という病に取り付かれている。そしてその病が私たちのアートを生み出している。

近代の相克と葛藤。近代の日本の画家達は伝統的な日本の感性を有しながら、西欧的技法を習得しなければならなかった。梅原であり、志賀であり、藤田であり、松本であり、原田である。皆、自画像に傑作がある。これは近代の矛盾がなせる強さである。矛盾あるところに秀でた表現は生れる。「我を描く、ゆえに我有り」の苦悩が結実しているのだ。

しかし私たちの現代は違う。近代における自意識と外部の対立は解体し、むしろ自意識が失われて行く時代を生きている。自意識を描く自画像は姿を消し、顔は様々な意匠をまとう。しかしまとうことで豊かになる表現もある筈だ。並べられた顔の作品群は近代の強さと現代の豊かさとの対比ともいえる。そして自意識が失われてしまえば、そこには、美意識だけが抽出されることになる。そこで形や色彩、質感といったそのままが純粹な形で表出される。抽象画の誕生だ。

してみると絵画とは自意識のスペクトラムを往復する美の冒険であると言えるのではないだろうか。堪能して頂ければ幸いである。

高橋コレクション主宰・精神科医
高橋龍太郎



[表面]



ジョルジュ・ルオー《聖顔》
1939 | 油彩 | 72.2×49 cm
©ADAGP, PARIS & JASPER, TOKYO, 2018
G1225

- 1 奈良美智《Untitled》
1998 | 紙にアクリル絵具、色鉛筆 | 29.5×21 cm
©NARA Yoshitomo
Courtesy of the Artist
- 2 有島生馬《婦人像》
1908 | 油彩、キャンバス
40.4×32.7 cm
- 3 会田誠《ちび(「ランチボックス・ペインティング」シリーズ)》
2016 | 使い捨て弁当容器、発泡ウレタン、アクリルガッシュ
24×32.5×8.5 cm
©AIDA Makoto
Courtesy of Mizuma Art Gallery | Photo: 宮島径
- 4 草間彌生《No.27》
1997 | 油彩、キャンバス
91×73 cm
©YAYOI KUSAMA
Courtesy of Ota Fine Arts, Tokyo / Singapore
- 5 清川あさみ
《9月15日 Sep.15》2016
昇華転写捺染、糸、写真
29.5×29.5 cm
©Asami Kiyokawa
- 6 中川一政《男の像》
1971 | 油彩、キャンバス
45.4×38 cm

清春芸術村

Kiyoharu Art Colony

ラ・リュージュ

清春白樺美術館

光の美術館

ルオー礼拝堂

茶室 徹

梅原龍三郎アトリエ

白樺図書館

清春陶芸工房

開館時間

10:00-17:00

[入館は午後4時30分まで]

休館日

年末年始

月曜[但し、祝日の場合は翌平日]

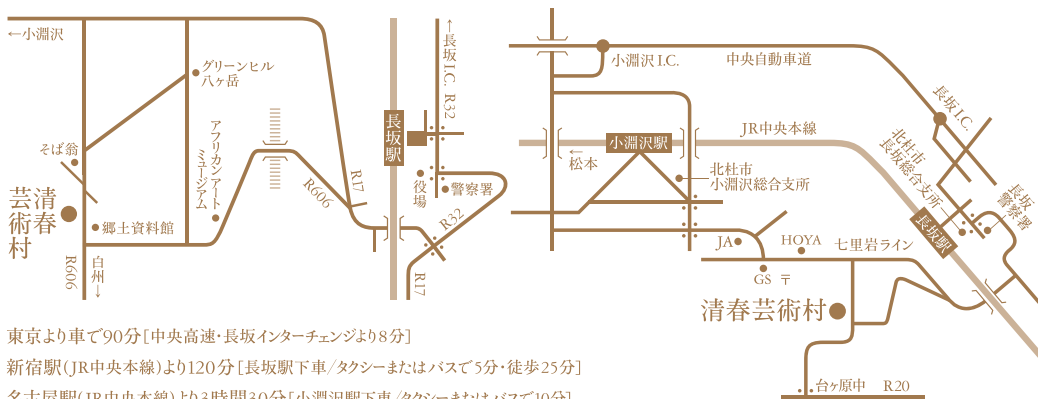
入村料

一般1500円[1400円]

大・高校生1000円[900円]

小・中生無料

- 内は20名以上の団体料金です
- 清春白樺美術館、光の美術館入館料を含む



東京より車で90分[中央高速・長坂インターチェンジより8分]

新宿駅(JR中央本線)より120分[長坂駅下車/タクシーまたはバスで5分・徒歩25分]

名古屋駅(JR中央本線)より3時間30分[小淵沢駅下車/タクシーまたはバスで10分]

清春芸術村
公益財団法人清春白樺美術館
Kiyoharu Art Colony
Foundation Yoshih
Kiyoharushirakaba Museum

山梨県北杜市長坂町中丸2072
2072 Nakamaru, Nagasaka-cho
Hokuto-shi, Yamanashi
Tel: 0551-32-4865

E-mail:
kiyoharu-art-colony@royal.ocn.ne.jp
HP: <http://www.kiyoharu-art.com>
Twitter: <http://twitter.com/kiyoharuart>